

各地区情勢報告（2020年1月28日）

地区報告者	報告概要
<p>東京地区 (山岸常任理事)</p>	<p>棒鋼部会（鉄筋・店売り）12月は今年1番の低調さであった。12月落ち込んだ分1月増加し加工量も増えている。市況はなんとか維持できている。夏場まで仕事量が増えることは難しい。鉄筋はメーカーがしっかり在庫を持っており、流通在庫のひっ迫感はない。（鉄筋・直送）昨年11月にスクラップ価格が反発したため、11月の明細投入量が21万トン、12月も25万とやっと前年並みの明細投入量となった。足元では基礎杭向けの出荷が伸び、2月以降には躯体向けに反映されそうだ。（平鋼）10月、11月、12月と月を追うごとに悪くなった。秋需はなかった。トラックの台数は変わっていない。1月に入り、荷動きも良くなり先々の物件も見え始めてきた。価格も9月、10月と若干下がったが、11月以降は量がまとまったものに関しても価格は維持されている。見積りがないわけではないが、あまり期待できない。オリンピック前の4～6月の需要動向がなかなか読めない。（構造用丸鋼）12月は前月と比べると荷動きが悪く、低調な動きであった。市中在庫は多い。メーカーの生産能力に余裕がある。現状、販売価格は維持されているが、需要が低迷すれば、すぐに下落する感じである。スクラップ相場が11月反発後、横ばいで推移している。</p> <p>形鋼部会（形鋼概要）形鋼部会調査によると販売総量は前月比7.4%減、前年同月比6.7%減。入荷は1.6%増、出荷は8.4%減でした。</p> <p>（一般形鋼）一般形鋼の12月販売量は前月比9%減、前年同月比で10%減。荷動きは10月、11月、12月と月を追って減少している。市中玉出回り状況は11月まで踏ん張ってきたが、販売減のため増加している。年明けからの荷動きは決してよくない。建築案件の需要が落ちている。土木に関してはシートパイルの付属品として一般形鋼、溝形鋼の需要が出ている。一次加工は短納期ばかりである。中小物件が低調なため精彩を欠いている。価格は月を追うごとに下押ししている。電炉メーカーは生産調整しているが、荷動きが悪いため年度末に向け注意が必要である。不需要期に入っているので適正マージンを確保していきたい。</p> <p>（H形鋼）12月は今年1番の低水準であった。現状、土木関連の仕事が若干出てきている。ときわ会在庫19万600トン。前月比約1万トン増え20万トンに近い危険レベルとなった。加工品の需要も一服感があり減少している。建築着工は11月の全建築は36万6千トン、前年同月比で6万トン減。大手ファブは夏まで山積みを確認しているが、中小ファブは端境期で減少している。ボルト問題も解消されているが、中小案件が出てこない。売腰は弱気である。年末から今年にかけて指値も厳しくなっている。オリンピック後までは仕事が出てこないと思われるため現市況を大切にしていきたい。（コラム）足元の物件は少なく荷動きは低調。細かい物件ばかりで納期も即納。流通は販売価格を据え置いている。大型案件はオリンピック以降で、これ以上の期待はできない。</p>

(C形鋼) 大きな変化はない。必要最低限の需要はある。加工物件も少ないが、継続受注は続いている。加工全般について細かい物件が多いため大型物件が出てくると加工賃が下落するのではと懸念している。適正マージンを維持していきたい。

薄板部会 (薄板概況) 11月の薄板三品在庫は423万3千トン。対前月比4千トン減少。在庫は未だに高い水準である。私見だが今の需要からすると約80万トン多いのではないかと。12月は例年年末の駆け込み需要があるが、今年は少なかった。首都圏再開発含む空調ダクト、建設関係は動いている。仮設住宅もオリンピック関連の需要がある。住宅も建売中心に現状底堅いが先行き不透明感も出てきている。土木、道路、JR関係の暴風壁の需要が出ている。建機関連はよくない。薄板の需要についてパーテーションがガラスに変わり、スチールデスクが木に変わり鉄の取り扱いが少なくなっている。鋼製家具メーカーは鉄板を買って加工していた部品を木やガラスの部品を購入して代替えしている。空調、医療機、5G(ファイブジー・移動通信システム)などにしてもコンパクトになっているため鉄の使用量が減少している。(表面処理鋼板・店売り) 販売量は落ちている。C形鋼はメッキ仕様よりカラーC形鋼というような話がある。薄板三品在庫も減っていない。仕入も減らしているが、市中在庫は減少していない。これ以上悪くならないと思っているが、オリンピック終了までこのまま続くのか、市況が下落しないか心配である。今の状況は最悪である。

厚板部会 (厚板概要) 良い分野がほとんどない。台風の影響もあるかと思われるが、建産機は減産が始まり低調。母材販売は大幅減少している。敷板は荷動きがあるものの市況は輸入材の影響で弱含んでいる。価格について高炉メーカーの強気姿勢は変わらないが、市中在庫が潤沢のため価格は弱含んでおり安値玉が出ている。地方の二次店三次店は在庫意欲なく当用買い中心。今年の仕事量は、オリンピックまでは低位安定が続くと思われる。ひも付きの建産機関連も需要回復の兆しなく、建築についてもオリンピック終了後まで仕事はない。当面厳しい状況は続くと思われる。(中板コイル) 建機関連は台風の影響で当初減少するという予測どおり、12月から数量減となっている。年明け後も生産数量は戻らないように思われる。大きな回復は見込めない。トラック関係の輸出が回復してきた。ダンプ関係は災害の影響で需要が出始めた。塗装関係も忙しくなってきた。特に12月から落ち方が以前より悪くしており、価格の下げスピードが増している。現状、コイルセンターの採算は厳しい。流通在庫は増加傾向である。(厚板定尺) 12月の荷動きは11月比2割程度減少。前年同月比でも1割減である。仕事量もかなり少なく、引合いも3×6、4×8の小ロットが主で、5×10、5×20はほとんど引合いなし。メーカーの採算は順調で申し込めば、タイミング早く納入される。在庫調整も追いつかない状況。メーカーへの申し込みも減らしているが、スキップするわけにもいかず悩ましい状況である。回転のいい16ミリ、19ミリの板厚物も

	<p>現状荷動きがかなり落ち込んでおり、出荷状況が悪く在庫が膨らんでいる。(縞板) 大きな変化なく推移している。定尺素材販売は低調。地方への二三次店向けの販売が減少しており、当用買い中心である。縞板は建築の実需に左右される。地方の建築需要がよくない。切板についても店売り向けのスポット物件は月を追って悪くなっている。レーザー、タレパン(ターレットパンチプレス・精密板金加工) 加工中心の出荷である。再開発物件、立駐、物流倉庫などの直需向けは出ているが12月は小ロット中心の物件が多かった。物件の山積みは高いが、一部の物件は3~5月に前倒しで発注されている。店売り向けでは、5月以降にプラント向け工場のフロア材が数件入ってきている。現状、悪いのでこれらの物件を受注していきたい。</p> <p>鋼管部会(鋼管概況) 鋼管の場合、少量多品種であり、向け先も裾野が広い。ため、景気がいい悪いに限らず在庫は適正水準を保っている。売上数量が悪ければ、その分、仕入もしっかり抑える体制をとっている企業もある。現状、通常の需要は1割~2割位落ちている。特に製造業関係が悪く、自動車関連もメーカーによってだが悪くなっている。鋼管杭も悪くなっている。原因はコンクリート杭に比べると価格が高くなってしまったからではないか。(高炉品) 12月の販売量は前年同月比、前月比ともに約15%減。10月より荷動きが低調になっており、12月は稼働日の減少以上に落ち込んだ。良い需要分野がない。価格において高炉メーカーは強気姿勢を崩していない。納期は徐々に早まっている。1月は2週目から関東近郊の中小設備案件中心に荷動きが出てきた。但し中小案件のため小ロット短納期が多い。先行きはプラント分野で京浜地区、鹿島地区で定修案件がある。新規の設備案件はオリンピック後までないと思われ、改修、定修の工事が行われる予定。物流は期待できない。市中の状況は、高炉メーカーの値上げの価格転嫁が厳しい状況だが、適正口銭を維持するために粘り強くアナウンスしている(溶協品) 12月の販売量は前年同月比約15%減、前月比約10%減。12月の店売りは11月の悪さを引きずったまま、週を追うごとに悪くなってしまった。最終週はお休みモード。昨年8月から悪い状況が続いていたが、12月更に1段悪くなった。土木分野の鋼管杭は低調な商いになっている。12月~2月は不需要期のため出荷量は落ちている。建築はかなり少ない。物流倉庫は多いとされるが、市中におりてくるかどうかはわからない。端境期の中小物件も1~3月に増えるという話だが、材料価格が下がっているため様子見の状態と聞く。溶協メーカーは値上げできる状況ではないため年度末に向け数量確保に動く気配もある。</p>
<p>大阪地区(森下常任理事)</p>	<p>昨年の10~12月と一昨年10~12月に比べ5品種部会とも平均1割位、販売量が落ちている。</p> <p>(異形棒鋼) 12月販売量は季節的要因があるもののそれ以上に冴えない状態が続いている。スクラップ市況は上向いてきたが、活気が感じられな</p>

	<p>い。(平鋼) 小口当用買い中心である。(構造用鋼) 製造業向けが全般的に不調。建築向けも動きがイマイチ。2月以降も大型物件なく、中小物件中心の冴えない動きになるだろう。ボルト不足は解消されつつあるが、物件自体が足りない。(H形鋼) 12月の販売量は前月比13.4%減。稼働日数減だがそれ以上に減少している。スクラップ価格が戻っているが、荷動きが変わらない。(一般形鋼) 12月の販売量は稼働日数分の減少に留まったが、低調である。1月も低調な販売が続いている。流通は仕入を抑えているため在庫は増えないだろう。(薄板) 11月の自動車生産販売台数は9.1%減。新車販売も減少。堅調であった自動車も落ち込んできた。家電も消費増税の反動で減少している。鋼製家具は1~3月のオフィス向けデスク、キャビネットなども首都圏中心に出てくるのではないかと。11月新築着工建築も5ヶ月連続で前年割れが続いている。全体的に消費増税前の駆け込み需要の反動でどの分野も減少している。建機は11月の生産は前年比3割位落ち込んでいる。米中貿易摩擦の影響で輸出も落ちている。工作機械も悪い状況が続いている。製造業全般が悪くなっており薄板販売に影響を及ぼしている。薄板3品在庫も減少しているが、未だに多い状況。(厚板) 全般的に悪い。その中でも特に造船がかなり悪い。シャーリング、溶断も落ち込んでいる。切板単価も落ちている。(鋼管) 製造業関連が良くない。店売り販売も前年に比べ減少している。</p>
<p>富山地区 (武部常任理事)</p>	<p>富山県はアルミ製品の街である。Hグレードファブ向け建材製品の販売量は1割程度減少している。関西から入ってくる鋼材(店売り数量)も概ね10%程度減少している。石川県では海外向け大型ブルドーザーの生産が大幅減。国内向けの建機関連も大幅な減少になっている。福井県の方は新幹線の土木関連の仕事で堅調に推移している。</p>
<p>新潟地区 (澁井常任理事)</p>	<p>12月の業況アンケートによると12月の販売は前年同月比6割企業が減少していると回答。12月の収益状況では赤字が4割。1月の荷動きは7割の企業が減少傾向と回答している。先行き3ヶ月についてもほとんどの企業が減少するだろうと予測している。12月販売量の減少幅についても前月比2~3割程度落ちている。雪がないにもかかわらず、荷動きが悪い。雪がないので、例年よりスキー場関連、除雪関係の仕事が少ない。越後湯沢の駅前ほとんど雪がない。新潟では雪のイベントが中止、延期、規模の縮小などとなっている。</p>